

ことばと、人や土地柄に対する意識

—山形県三川町における調査—

本木 隆寛

1. はじめに

あの土地のことばは柔らかい感じがする、とか、あの地方の人柄は陽気な感じがするなどということは誰しも何気なく思っているものである。首都圏では、急速な開発と人口流入によって、近隣の地域のことばや人柄に対するそのような意識は薄らいでいっている。しかし、いまだ方言が比較的多く残っている地方では、現在でもそのような意識が残っているのではないだろうか。

今回、山形県東田川郡三川町で、このような意識を調査した。三川町の人を持っている、三川町のことばについてのイメージと標準語についてのイメージはどのように異なるのか。また、三川町の人や土地柄に対するイメージと東京の人や土地柄に対するイメージはどのように異なるのか。そのイメージに世代差はあるのか。そのような観点のもと、三川町のことばに対する意識と標準語に対する意識、三川町の人や土地柄に対する意識と東京の人や土地柄に対する意識を比較しながらみていく。

2. 調査概要

山形県東田川郡三川町においてアンケート調査を行った結果、18歳から77歳まで合計77人からの回答を得た。今回の調査の分析は世代差に注目し、話者を61歳以上(24人)、35歳から60歳(25人)、34歳以下(28人)の年代別に分け、それぞれを高年層、中年層、若年層と定義して行う。

3. ことばに対するイメージ

3.1. 三川町のことば

「三川町のことばについて、どのようなイメージをお持ちですか。」という質問をし、15項目の対になる評価語(A01~A15)を提示して、話者の持っているイメージがどちらに近いか、直線の日盛り上に丸をつけて回答してもらった。直線の左側に、プラスイメージの評価語を置き、右側にはマイナスイメージの評価語を置いて、分析時に左から順に1から5まで番号をふり、点数化した。表1は、その平均値を示したものである。よって、本稿では点数が低いほどプラスイメージの評価語となり、高いほどマ

イナスイメージの評価語となる。

表 1

	A01	A02	A03	A04	A05	A06	A07	A08	A09	A10	A11	A12	A13	A14	A15
高	3.3	2.9	2.8	3.0	3.5	2.8	3.3	2.8	2.6	2.9	3.3	2.3	2.5	3.3	2.8
中	3.3	3.0	2.3	3.0	3.4	2.8	3.2	2.3	2.3	3.1	3.7	1.8	2.5	3.1	2.4
若	3.1	3.1	2.3	2.7	3.4	2.8	3.4	2.0	2.2	2.7	3.9	1.8	2.5	3.2	2.3
全	3.2	3.0	2.4	2.9	3.4	2.8	3.3	2.4	2.3	2.9	3.7	2.0	2.5	3.2	2.5

A01 丁寧 - ぞんざい

A02 きれい - 汚い

A03 穏やか - 乱暴

A04 軽快 - 重苦しい

A05 若い女性にふさわしい - 若い女性にふさわしくない

A06 能率的 - 非能率的

A07 聞き取りやすい - 聞き取りにくい

A08 柔らかい - 固い

A09 優しい - きつい

A10 明るい - 暗い

A11 都会的 - 田舎くさい

A12 味がある - 味がない

A13 のんびりしている - せわしない

A14 上品 - 下品

A15 表現が豊か - 表現が乏しい

3.1.1. 全世代の傾向

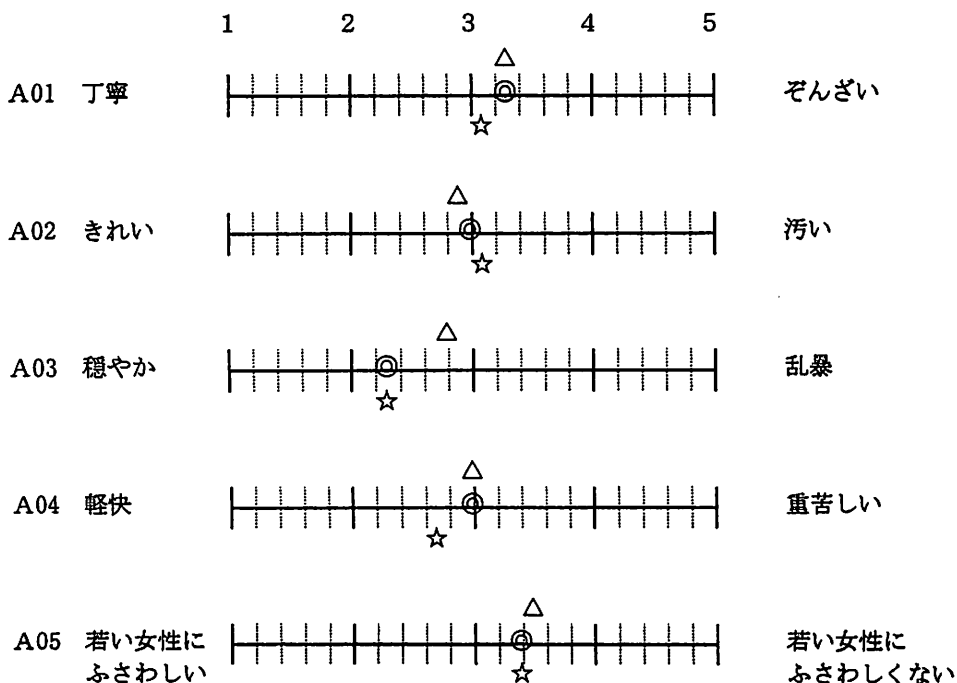
アンケートの結果から言える特徴的なことは、A03「穏やか」、A08「柔らかい」、A09「優しい」などと三川町のことばを肯定的にとらえながらも、A05「若い女性にふさわしくない」、A11「田舎くさい」などと否定的な部分も意識しているということだ。

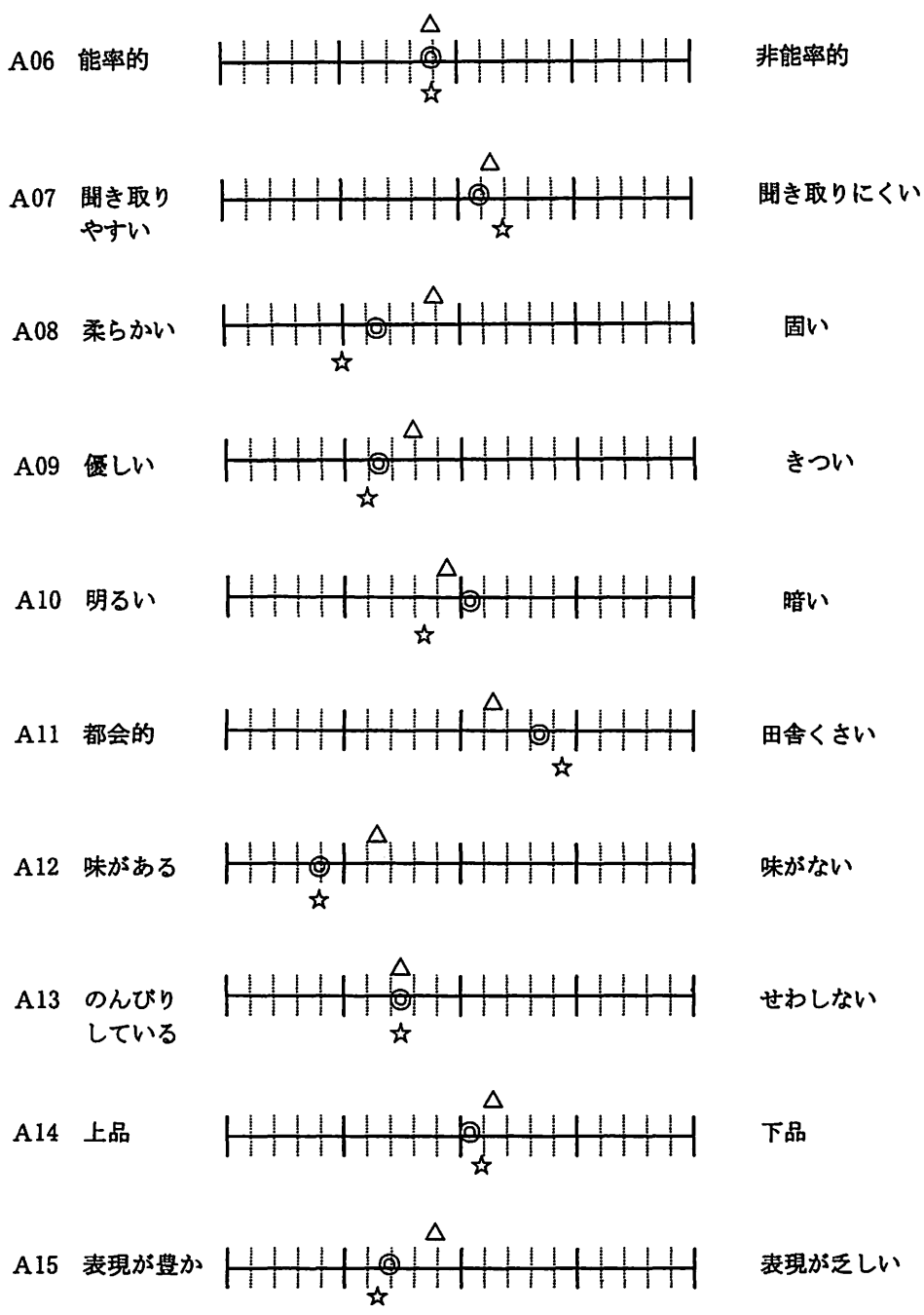
3.1.2. イメージの世代差

図1は、平均値を世代別に示したものである。なお、本稿では、A03 (穏やか - 乱暴) などの表現があった場合、ハイフンの左側にプラスイメージの評価語を置き、右側にマイナスイメージの評価語を置くこととする。以下すべて同様。

この図を見てわかる傾向は次のとおりである。各項目とも比較的世代差が少なかった。A03 (穏やか - 乱暴) は中年層、若年層が等しい平均値を示し、高年層よりもややプラスイメージを持っている。A08 (柔らかい - 固い) は高年層から若年層にいくにつれて、プラスイメージを回答する傾向が強くなった。A09 (優しい - きつい) も A08 と同様の傾向を示し、若年層のほうがよりプラスイメージを持っている。A11 (都会的 - 田舎くさい) はそれらと逆の傾向がみられ、高年層のほうがプラスイメージを持っているが、全体としてはマイナスイメージに傾いている。これは高年層が、より市街地へ行く機会が少ないからだろうか。A12 (味がある - 味がない) は、中年層、若年層の多くがプラスイメージの評価語に回答をしている。これらの世代は、日常生活で標準語を話す機会が多いので、比較対象が標準語になったためであろう。このことはA15 (表現が豊か - 表現が乏しい) の傾向を見てもわかる。

図1 凡例 △…高年層 ◎…中年層 ☆…若年層





3.2. 標準語

「標準語について、どのようなイメージをお持ちですか。」という質問をし、「三川町のことばに対するイメージ」と同様の15項目の対になる評価語(A16～A30)を提示

して、三川町のことばに対するイメージと同様に、直線の日盛り上に丸をつけて回答してもらった。表2は、その平均値を示したものである。

表2

	A16	A17	A18	A19	A20	A21	A22	A23	A24	A25	A26	A27	A28	A29	A30
高	2.5	2.2	2.5	2.3	2.3	2.5	2.2	3.0	2.8	2.3	2.0	3.1	3.2	2.5	2.8
中	2.4	2.4	2.8	2.8	2.7	2.4	1.7	3.1	3.0	2.8	2.0	3.8	3.3	2.6	3.1
若	2.4	2.3	2.9	2.6	2.4	2.5	1.9	3.5	3.3	3.0	1.7	4.1	3.5	2.4	3.4
全	2.4	2.3	2.7	2.6	2.4	2.5	1.9	3.2	3.0	2.7	1.9	3.7	3.3	2.5	3.1

- A16 丁寧 - ぞんざい
- A17 きれい - 汚い
- A18 穏やか - 乱暴
- A19 軽快 - 重苦しい
- A20 若い女性にふさわしい - 若い女性にふさわしくない
- A21 能率的 - 非能率的
- A22 聞き取りやすい - 聞き取りにくい
- A23 柔らかい - 固い
- A24 優しい - きつい
- A25 明るい - 暗い
- A26 都会的 - 田舎くさい
- A27 味がある - 味がない
- A28 のんびりしている - せわしない
- A29 上品 - 下品
- A30 表現が豊か - 表現が乏しい

3.2.1. 全世代の傾向

アンケート結果を見てみると、標準語に対するイメージは全体的に、プラスイメージの回答が目立つ結果となった。とくに、A22（聞き取りやすい - 聞き取りにくい）、A26（都会的 - 田舎くさい）はかなりプラスイメージの方向に回答されている傾向が強かった。反対にマイナスイメージの回答があったのはA23（柔らかい - 固い）、A27（味

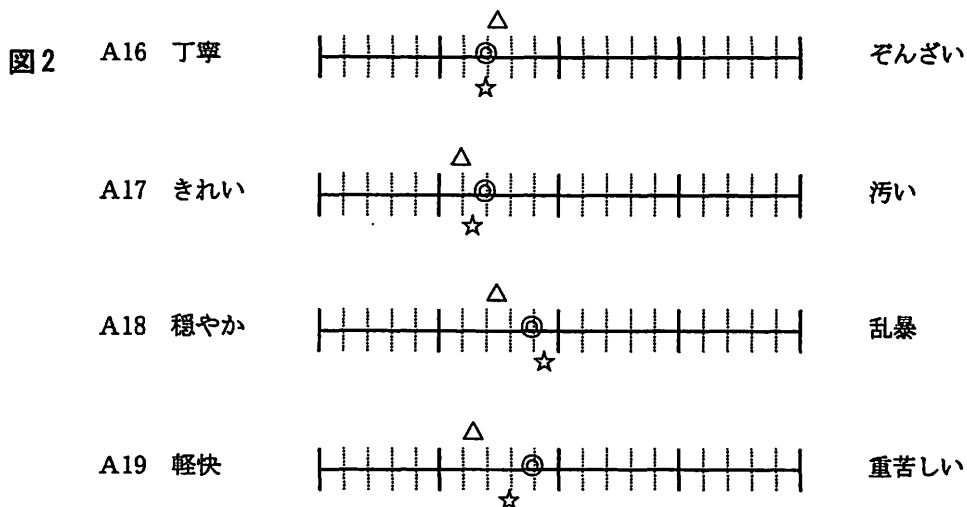
がある - 味がない)、A28 (のんびりしている - せわしない) である。これらの回答の特徴は、標準語がニュースや公的な場面で使われるということにも起因しているのではないだろうか。

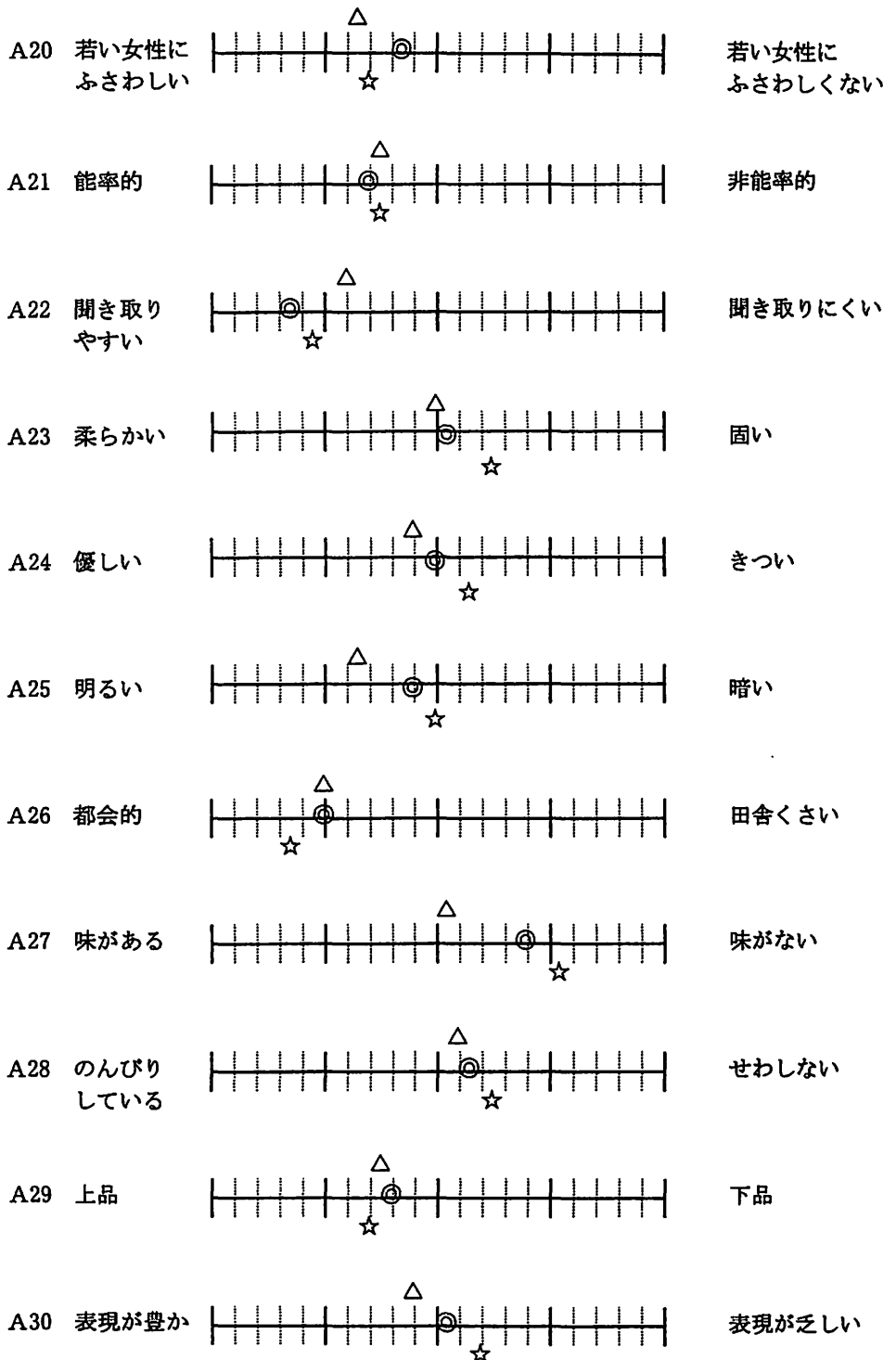
3.2.2. イメージの世代差

三川町の場合と同様に、世代別に平均値を示すと図2のようになる。標準語に対するイメージについては、比較的世代差が見られた。

A19 (軽快 - 重苦しい)、A20 (若い女性にふさわしい - 若い女性にふさわしくない)、A25 (明るい - 暗い) の3つは高年層の回答がプラスイメージの方向に多くなった。A22 (聞き取りやすい - 聞き取りにくい) では、中年層と若年層の多くがプラスイメージの方向に回答している。高年層の回答が、他の世代と比べるとややマイナスイメージの方向に寄ったのは、標準語に慣れていない話者が高年層に比較的多く残っているからではないだろうか。

A23 (柔らかい - 固い) から A30 (表現が豊か - 表現が乏しい) までは、一部を除き類似した傾向となった。これらの評価語では、高年層から若年層に向かうにつれて、マイナスイメージへの評価になっているという特徴がある。たとえば、A23 (柔らかい - 固い) では、高年層の平均値が中心の3.0となり、3つの世代で比べると若年層の平均値が最もマイナスイメージに寄っている。A27 (味がある - 味がない) でも同様のことが言える。これは、若い人のほうが、より標準語に慣れており、日常生活でも標準語を多く使用しており、標準語の使用能力があるため、標準語のことを肯定的に捉えていないからではないだろうか。

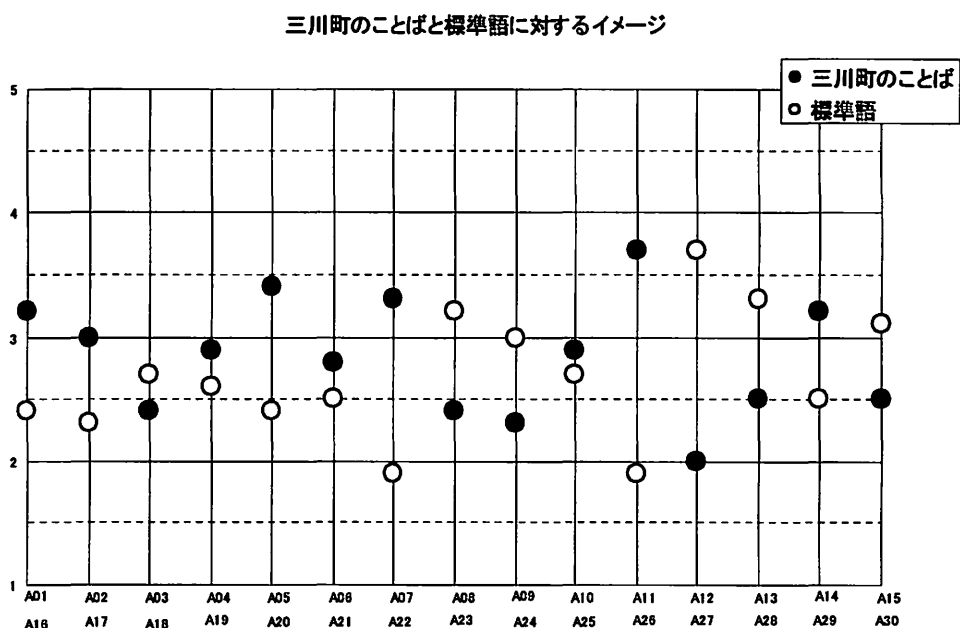




3.3. 三川町のことばと標準語に対するイメージとの比較

先にも述べたとおり、三川町のことばに対するイメージと標準語に対するイメージを問う評価語は同一である。このため、三川町の場合の表と標準語の場合の表を同一の図に示して、その差をみている。

図 3



このようにしてみると、「若い女性にふさわしい - ふさわしくない」(A05 と A20)、「聞き取りやすい - 聞き取りにくい」(A07 と A22)、「都会的 - 田舎くさい」(A11 と A26)、「味がある - 味がない」(A12 と A27) の4つに、三川町のことばと標準語の間で大きな差がみられ、他の評価語についてはあまり大きな差は見られなかった。差がみられたいずれの評価語も、中心の3.0を挟んでプラスイメージ寄りかマイナスイメージ寄りかが、三川町のことばと標準語とで分かれている。「若い女性にふさわしい - ふさわしくない」(A05 と A20) は三川町のことばに対してマイナスイメージの回答が多く、標準語に対してプラスイメージの回答が多くなった。「聞き取りやすい - 聞き取りにくい」(A07 と A22)、「都会的 - 田舎くさい」(A11 と A26) も同様である。「味がある - 味がない」(A12 と A27) は反対に標準語に対してプラスイメージの回答が多くなり、三

川町のことばに対してマイナスイメージの回答が多くなった。このことから、今回の調査であげた15項目の評価語の中でおもにこの4つが、三川町の人々が持っている、三川町のことばに対するイメージと標準語に対するイメージとの差であるということが出来る。

4. 人や土地柄に対するイメージ

4.1. 三川町の人や土地柄

「三川町の人や土地柄に対してどのようなイメージをお持ちですか。」という質問をし、7項目の対になる評価語（B01～B07）を提示して、ことばのイメージと同様に回答してもらった。表3は、その平均値を示したものである。

表3

	B01	B02	B03	B04	B05	B06	B07
高	2.2	2.1	2.9	3.3	2.1	2.6	3.3
中	2.0	2.0	3.0	3.6	1.8	2.3	3.0
若	1.9	2.0	2.4	3.9	2.1	2.4	3.0
全	2.0	2.0	2.8	3.6	2.0	2.4	3.1

B01 穏やか - 乱暴

B05 人情味がある - 人情味がない

B02 優しい - きつい

B06 のんびりしている - せわしない

B03 明るい - 暗い

B07 上品 - 下品

B04 都会的 - 田舎くさい

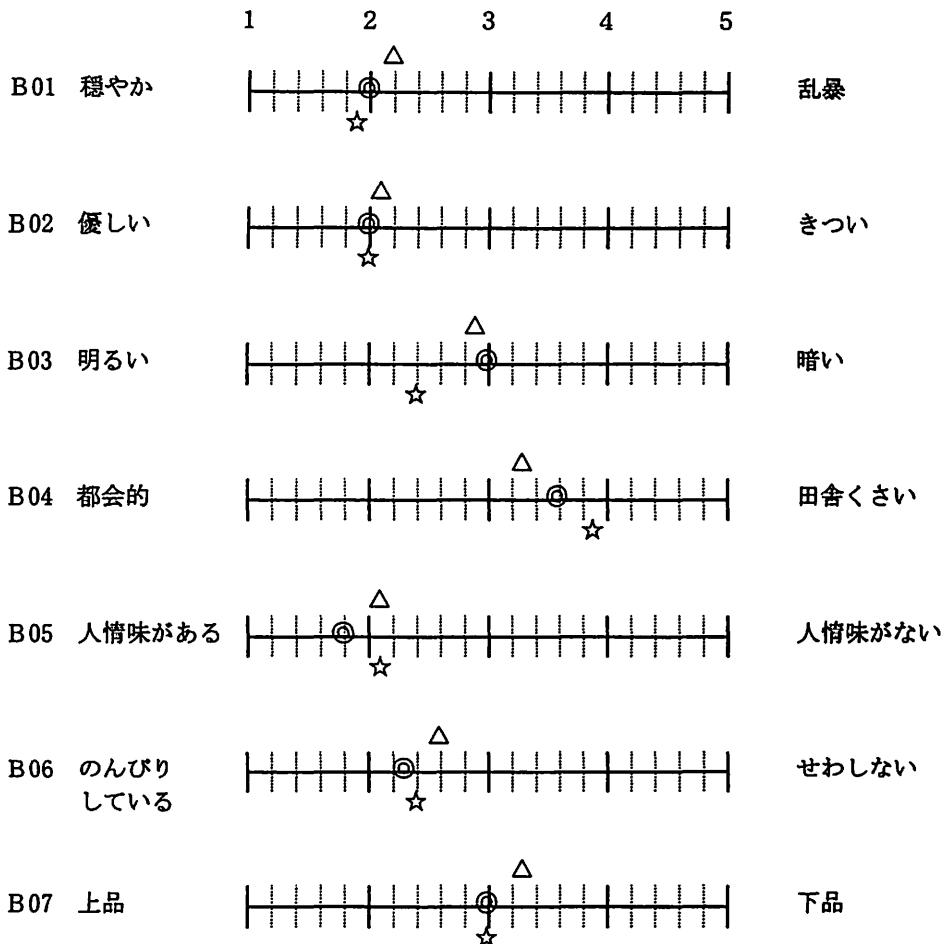
4.1.1. 全世代の傾向

全世代の傾向をみると、B01（穏やか - 乱暴）、B02（優しい - きつい）、B05（人間味がある - 人間味がない）の3つはかなり高い割合でプラスイメージの回答が集まった。B04（都会的 - 田舎くさい）については、三川町のことばで見られたのと同様に、マイナスイメージの回答が多くなった。三川町の人々は、同じ三川町の人や土地柄のことを肯定的に捉えていると言える。

4.1.2. イメージの世代差

図4は、三川町の人や土地柄に対するイメージを世代別に示したものである。あまり極端な世代差は見られず、各世代とも共通したイメージを抱いていることがわかる。B01（穏やか - 乱暴）、B02（優しい - きつい）、B05（人間味がある - 人間味がない）、B06（のんびりしている - せわしない）はどの世代もプラスイメージに回答し、どの世代とも三川町の人や土地柄のことを肯定的に捉えていることがわかる。B04（都会的 - 田舎くさい）は高年層から若年層にいくにしたがってマイナスイメージへの回答が多くなっている。これは、若い人のほうが市街地に出る機会が多いためだと思われる。

図4



4.2. 東京の人や土地柄

「東京の人や土地柄に対してどのようなイメージをお持ちですか。」という質問をし、「三川町の人や土地柄に対するイメージ」と同様の7項目の対になる評価語（B08～B14）を提示して、話者の持っているイメージがどちらに近いのか、直線上に丸をつけて回答してもらった。直線の左側に、プラスイメージの評価語を置き、右側にはマイナスイメージの評価語を置いて、分析時に左から順に1から5まで番号をふり、点数化した。表5は、その平均値を示したものである。

表5

	B08	B09	B10	B11	B12	B13	B14
高	2.8	3.1	2.6	1.9	3.3	3.3	2.8
中	3.4	3.5	2.9	1.9	3.8	4.1	2.9
若	3.3	3.5	3.0	1.7	3.9	4.0	2.8
全	3.2	3.4	2.9	1.9	3.6	3.8	2.8

B08 穏やか - 乱暴

B12 人情味がある - 人情味がない

B09 優しい - きつい

B13 のんびりしている - せわしない

B10 明るい - 暗い

B14 上品 - 下品

B11 都会的 - 田舎くさい

4.2.1. 全世代の傾向

東京の場合の傾向は、三川町の場合とは異なった結果となった。全体的にみると、比較的マイナスイメージの回答が多く見られた。プラスイメージで目立ったのは B11（都会的 - 田舎くさい）のみで、これも「標準語に対するイメージ」と同様の結果である。マイナスイメージを示した回答で目立ったのは B13（のんびりしている - せわしない）だった。三川町の人々は、東京の人や土地柄に対してあまり良いイメージを持っているとは言えないようだ。

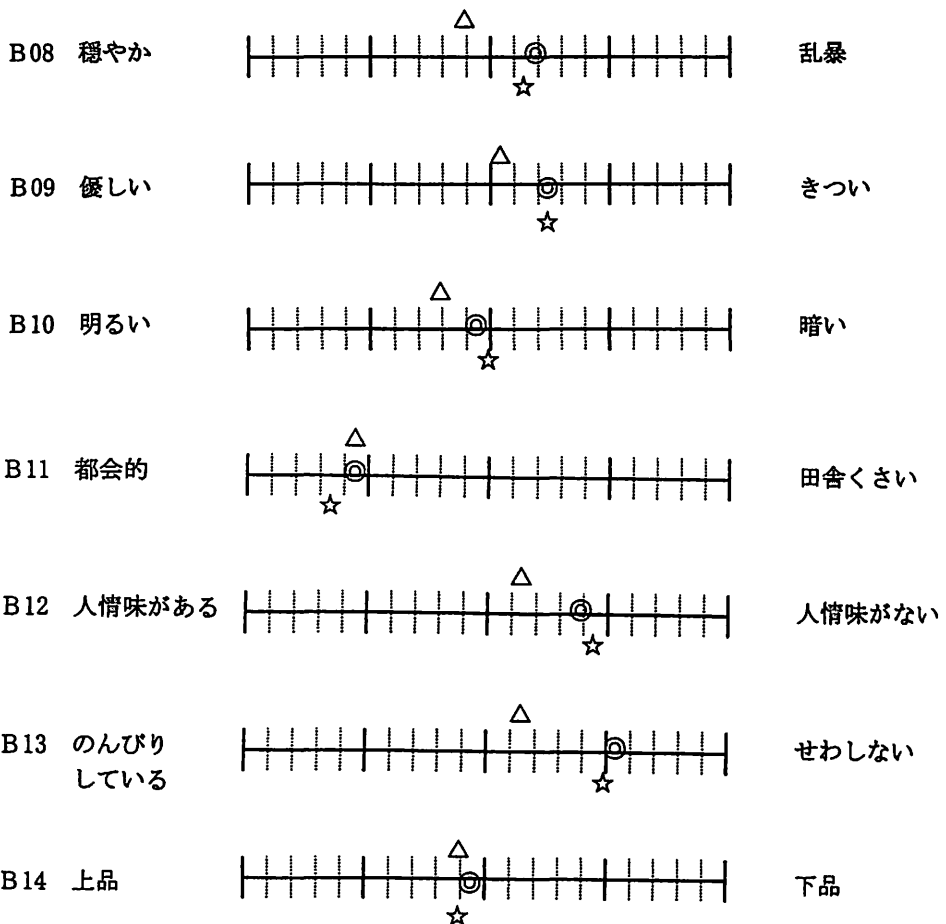
4.2.2. イメージの世代差

東京の人や土地柄に対するイメージを世代別に示したものが図5である。

これをみると、三川町の場合よりも世代差が顕著に出ていることがわかる。B08（穏

やか - 乱暴) では高年層の回答が、ややプラスイメージに多いのに対して、中年層と若年層の回答はマイナスイメージ寄りの回答が多かった。B11 (都会的 - 田舎くさい) はどの世代も共通してプラスイメージ寄りの回答が多かった。B12 (人情味がある - 人情味がない)、B13 (のんびりしている - せわしない) では、各世代ともマイナスイメージの方向に回答しているが、中年層、若年層の回答は高年層よりも極端になっている。

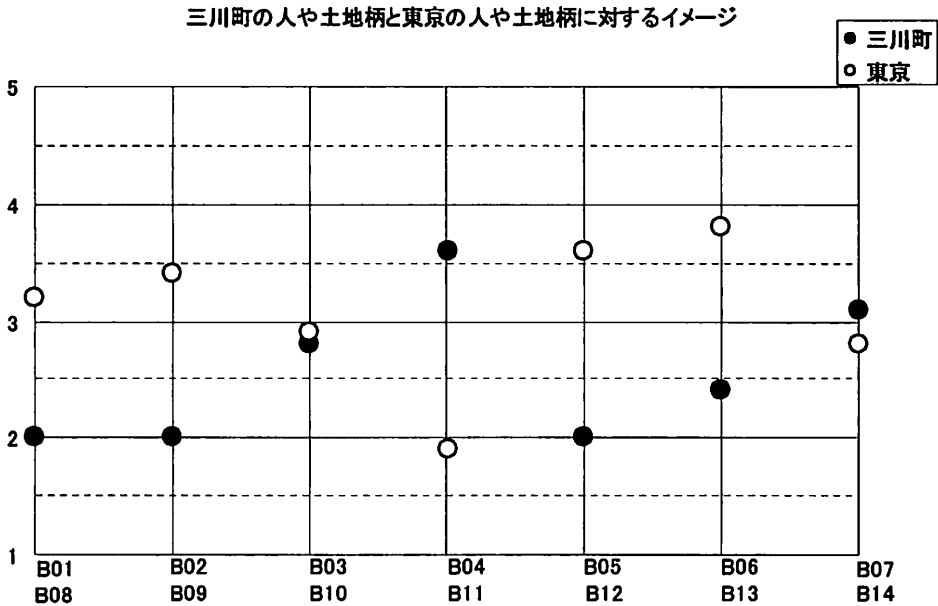
図5



4.3. 三川町の人や土地柄と東京の人や土地柄に対するイメージとの比較

ことばのイメージと同様にして、三川町の人や土地柄と東京の人や土地柄に対するイメージを比較してみる。

図 6



この図からは、かなり特徴的な結果がみられた。「明るい - 暗い」(B03 と B10)、「上品 - 下品」(B07 と B14) の 2 つにほとんど差が見られなかったのに対し、他の評価語には顕著な差が見られた。このことから、三川町の人々は自分の土地や東京に対して、明るい暗い、上品か下品か、という意識を特別に抱いていないということが推測される。その他の評価語については差が見られたが、これは三川町の場合や東京の場合で個別にみたことと同様である。

5. まとめ

三川町の人々は、自分たちのことば、人や土地柄を肯定的に捉えている。それは「穏やか」、「柔らかい」、「優しい」、「味がある」、「表現が豊か」、「人情味がある」などというプラスイメージの評価語からわかる。しかし、それと同時に標準語とくらべて「若

い女性にふさわしくない」、「聞き取りにくい」、「田舎くさい」との捉え方もあるという
こともわかる。

また、標準語に対しては「丁寧」、「きれい」、「軽快」、「若い女性にふさわしい」、「聞き取りやすい」、「都会的」などというプラスイメージの回答があるのに対して、「味がない」、「せわしない」、「人情味がない」というマイナスイメージの回答がある。

そして、三川町の人々は、三川町や東京に対して、「明るい-暗い」「上品-下品」という意識は特に持っていないということもわかる。

今回の調査では以上のようなことを知ることができたが、その結果にどのような要因があるのか、世代によって差が出るのは何故か、ということは必ずしも十分に考察するに至らなかった。今後はそのようなことも視野に入れながら調査を行っていけば、今回の調査結果が、より生かされたものになるのではないだろうか。また、今回のような調査を他の土地で行い、三川町のそれと比較するというのも意義があることだと思われる。

注

¹ 標準語に対する定義や説明は一切せず、何をもって標準語とするかということは、インフォーマント個人のイメージに任せた。

参考文献

(1997)『日本のことばシリーズ6 山形県のことば』明治書院

(もとき たかひろ・東京都立大学学生)